

令和 7 年度
幼児教育研究会

指 導 案



令和 7 年 11 月 1 日（土）
岡山大学附属幼稚園

幼児教育研究会 要項

1 研究主題

未来へつなぐ「架け橋」—協同性に着目して—

2 日程及び内容

① 日程

8:50	9:10	11:40	12:00	12:45	14:20	14:30	15:40	15:50
公開 保育 受付	<公開保育>	開会行事 全体発表	昼食	<学年別分科会> 学年発表 グループ協議 指導助言	休憩・移動	講演会	閉会行事	

② 公開保育

組 名		保育者	
3 年保育 3 歳児	つばき組	松本 彩織	糸井 小夜美・林 園子 (3 歳児副担任)
	うめ組	足立 実佳	
3 年保育 4 歳児	もも組	鷹取 万友美	深田 暁子 (4 歳児副担任) 平松 礼 (5 歳児副担任)
	さくら組	住田 幸音	
3 年保育 5 歳児	ふじ組	栗坂 歩実	木下 順子 (教育支援員)
	きく組	田中 真帆	

※個人情報保護のため、
保育中の写真や動画の
撮影、録音はご遠慮くだ
さい。

学年別の分科会の中
で園内環境の撮影がで
きる時間を設けていま
す。

③ 全体会 提案発表者：田中 真帆（本園研究主任）

④ 学年別分科会

3 歳児 分科会	司会者	岡山大学学術研究院 教育学域 講師 大平 修也
	指導助言者	岡山市岡山っ子育成局 幼保運営課 幼児教育指導担当係長 小野 美奈子 岡山大学学術研究院 教育学域 教授 片山 美香
4 歳児 分科会	司会者	岡山大学学術研究院 教育学域 准教授 馬場 訓子
	指導助言者	岡山県教育庁義務教育課 指導班指導主事（主幹）小郷 善弘 岡山大学学術研究院 教育学域 教授 横松 友義
5 歳児 分科会	司会者	5 歳児 担任
	指導助言者	川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療保育学科 教授 中川 智之 岡山大学学術研究院 教育学域 教授 西山 修

⑤ 講演会【講師】北野 幸子 先生（神戸大学 国際人間科学部 教授）

【演題】「保幼小の接続～架け橋プログラムについて～」

参観にあたって

本日は幼児教育研究会にご参加くださり、ありがとうございます。
以下のことをご確認のうえご参観ください。

◎「公開保育を参観する際の視点」について

本日は、次頁に示している視点で保育参観をしていただきたいと思います。

午後の協議会では、参観していただいたことをもとに、幼児の「協同性」や教師の援助及び環境の構成について協議を深めたいと考えています。

つきましては、記録用紙にご記入いただき、学年別分科会でご活用ください。よろしくお願いいたします。

◎子どもたちの生活を守るため、以下のことにご留意ください。

＊保育中の写真・動画撮影，録音，スマートフォン等の使用はご遠慮ください。

学年別分科会後には，環境写真を撮影する時間を設けています。施設や環境の撮影は構いませんが，子どもたちの氏名や顔の入った写真・掲示物については撮影をご遠慮ください。

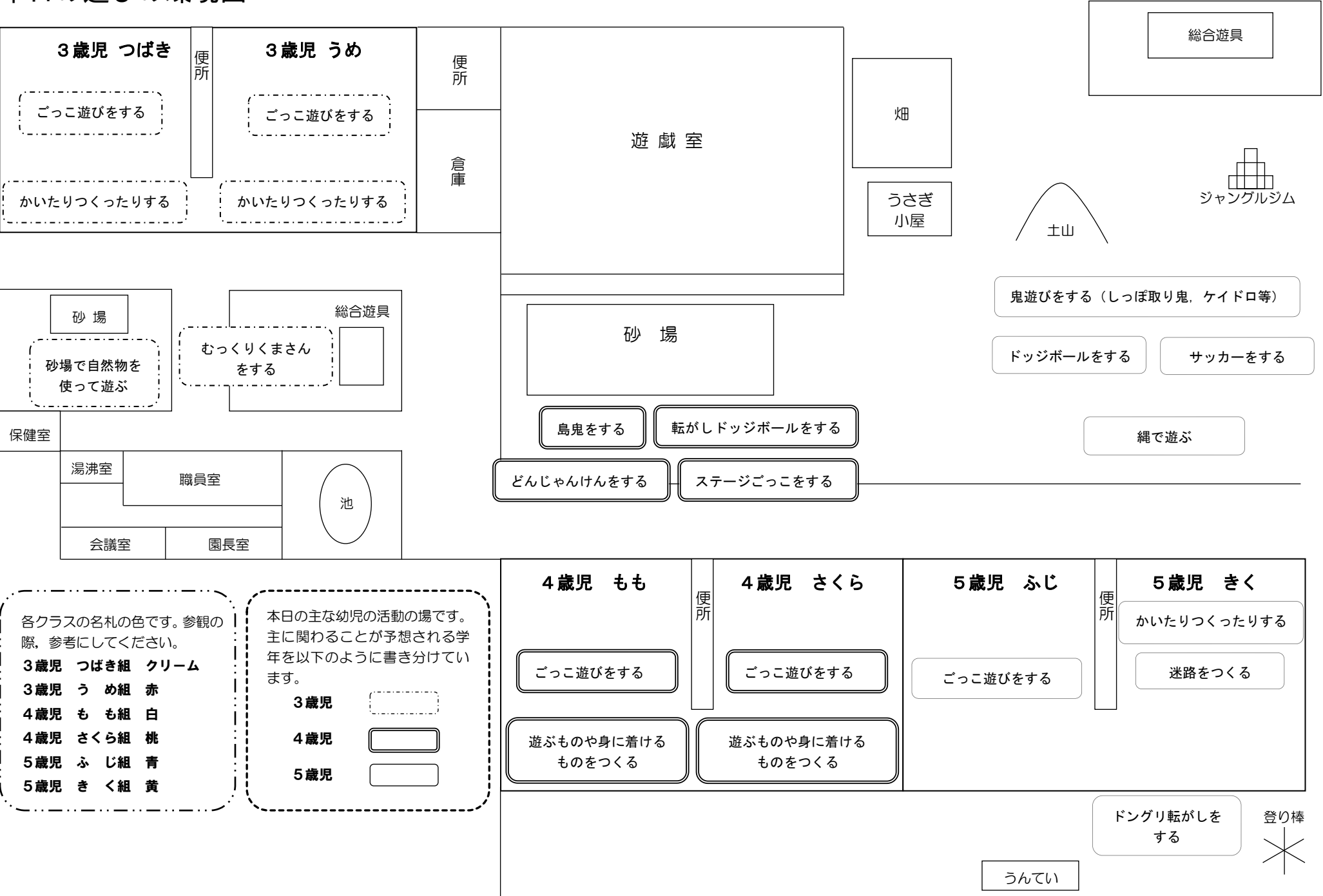
＊子どもたちの生活の妨げにならないよう，子どもに話し掛けず，子どもが通るときは通路をあける等のご配慮をお願いいたします。

◎袋の中に入っている資料をご確認いただき，不足のものがありましたら，お手数ですが受付までお申し出ください。

- ・名札ネックストラップ
- ・指導案
- ・全体会資料
- ・講演会資料
- ・「昨年度までの研究紀要の販売と，今年度の研究紀要について」
- ・幼稚園要覧
- ・幼児教育研究会に関するご意見及びご感想

◎その他，ご不明な点がありましたら本園職員にお尋ねください。

本日の遊びの環境図



本日の保育一覽

学年	3 年 保 育 3 歳 児		3 年 保 育 4 歳 児		3 年 保 育 5 歳 児	
クラス	つばき	う め	も も	さくら	ふ じ	き く
名札色	クリーム色	赤 色	白 色	桃 色	青 色	黄 色
担 任	松本	足立	鷹取	住 田	栗坂	田中
副 担 任	林	糸井	深田		平松	
教 育 支 援 員			木下			
8 : 35	○登園する。 ○持ち物の片付けをする。		○登園する。 ○持ち物の片付けをする。		○登園する。 ○持ち物の片付けをする。	
8 : 50	○選んだ遊びをする。 ・ 砂場で自然物を使って遊ぶ。 ・ むっくりくまさんをする。 ・ ごっこ遊びをする。 ・ かいたりつくったりする。 等		○選んだ遊びをする。 ・ 島鬼をする。 ・ 転がしドッジボールをする。 ・ ごっこ遊びをする。 ・ 遊ぶものや身に着けるものをつくる。 等		○選んだ遊びをする。 ・ 鬼遊びをする。 ・ ごっこ遊びをする。 ・ ドッジボールをする。 ・ ドングリ転がしをする。 等	
10 : 35	○片付けをする。		○片付けをする。		○片付けをする。	
10 : 45			○休息をとる。		○休息をとる。	
10 : 50	○休息をとる。					
10 : 55	○歌を歌ったり，絵本を見たりする。		○絵本を見る。			
11 : 00	○降園準備をする。				○本日の遊びについて話し合う。	
11 : 05			○本日の遊びについて話したり聞いたりする。			
11 : 10					○当番交代をする。	
11 : 15					○絵本を見る。	
11 : 20	○降園する。		○降園準備をする。		○降園準備をする。	
11 : 25						
11 : 30			○降園する。			
11 : 40					○降園する。	

< 3 歳児 >

【参観の視点】

本日の保育で見られた3歳児の「協同性」と、「協同性」を育む教師の援助と環境の構成

【本日のねらいに向かう教師の援助と環境の構成】

- ・ 十分な数の材料や用具を用意しておくことで、友達と同じものを持ちたい、同じことをしたい等の幼児の思いを実現することができるようにする。
- ・ 友達が遊んでいる様子やしていること、楽しんでいること等を言葉にしたり、側でやり取りをしたりすることで、同じ場で遊ぶ幼児同士が、互いのしていることを見聞きし、友達と関わるきっかけになるようにする。
- ・ 必要に応じて「入れて」「貸して」等の言葉を教師が使いながら知らせたり、一緒に言ったりすることで、遊びに必要な言葉を自分なりに使うことができるようにする。
- ・ 友達と関わって遊ぶ中で、思いがぶつかったり道具を取り合ったりする場面が見られたときには、それぞれの幼児の思いを尋ねて引き出し、思いを受け止める。同時に、教師が引き出した思いを代弁したり、具体的な言葉にしたりすることで、自分の思いを言葉で言おうとすることができるようにする。

公開保育を参観する際の視点

本日は，“本日の保育で見られた幼児の「協同性」と、「協同性」を育む教師の援助と環境の構成”という視点で保育参観をしていただきます。午後の協議会では、参観していただいたことをもとに，以下の視点で協議を深めたいと考えています。

【年齢別分科会 協議題】

○本日の保育の中で見られた，各学年における「協同性」について

○本日の保育の中で見られた，各学年における「協同性」を育む教師の援助と環境の構成について

【記録用紙】

幼児の「協同性」	「協同性」を育む教師の援助と環境の構成

先月末の幼児の姿	○教師や友達がしていることや言っていることに興味をもち、友達がつくっているものと同じものをつくろうとしたり、言っていることを真似たりする姿が見られる。また、教師や友達がいるところに自分から関わったり、同じことをして遊んだりする等、教師や友達と関わって遊ぼうとする姿が見られる。 ○2～3人の友達と関わって遊ぶ中で、使いたいものが同じで、物の取り合いになったり、順番を待つことができにくかったりして、いざこざが起きる場面がある。その中で教師の橋渡しがあると自分の思いを友達に言おうとする幼児もいるが、言うのを躊躇ったり、諦めたりする幼児の姿も見られる。		○鬼遊びでは、教師や友達が遊んでいる様子を見て興味をもち、追い掛けたり、逃げたりしてながら繰り返し遊ぶ姿が見られている。 ○ドングリやマツボックリ等の秋の自然物に興味をもち、見たり触ったり、遊びに取り入れたりする姿が見られる。その中で、大きさや色等の気付いたことを言葉にする姿が見られている。 ○登園時の持ち物の片付けや弁当時の準備や片付け等の身の回りのことを、自分でしようとする姿が見られるようになってきている。中には、気持ちが向きにくく、教師が個別に声を掛けたり一緒にしようとする取り組みだりする幼児もいる。	
ねらい及び内容	○先生や同じ場で遊んでいる友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。 ○身近な秋の自然に触れ、遊びに使ったり、様々な発見をしたりすることを楽しむ。 ○身の回りや遊びの片付け等を自分でしようとする。 ・したい遊びに自分から関わり、自分なりに考えたことをしてみようとする。 ・先生や同じ場で遊んでいる友達の言っていることやしていることに興味をもつ。 ・運動遊びや簡単なルールのある遊びに興味をもち、先生や友達と体を動かして遊ぶ。 ・自分の思いやイメージを先生や友達に言葉で言おうとする。 ・身近な素材や材料を使い、自分のイメージしたものをつくって遊ぶ。 ・秋の自然に触れたり、自然物を使ったりして遊ぶ。 ・身の回りのことや園生活の流れが分かり、自分のできることをしようとする。		行事	○公開保育（県・市） ○発育測定 ○副免実習 ○附中生交流 ○避難練習（不審者）
予想される幼児の活動			環 境 の 構 成 及 び 教 師 の 援 助	
遊 び	遊び以外の活動			
○ごっこ遊びをする。 （ステージごっこや店屋ごっこ等） ○かいたりつくったりする。 ・様々な素材（例：牛乳パック、空き箱、カップ等）を使ってつくる。 ○体を動かして遊ぶ。 （縄と関わって遊ぶ、ポックリ等） ○鬼遊びをする。			○同じ場にいる幼児一人一人の思いや考えを受け止めたり、友達のしていることに気付けるように教師が言葉にしたりすることで、友達の遊びに興味をもち、同じようにして遊ぶ楽しさを感じたりすることができるようにする。 ○教師も遊びに参加して友達と関わるきっかけをつくったり、橋渡しをしたりすることで、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようにする。 ○一人一人の言葉や動き等から何をイメージしているのか見取り、それに応じた言葉掛けをすることで、よりイメージが膨らむようにする。 ○役になりきって言葉のやり取りや動きをしている姿を認めることで、友達となりきって遊ぶ楽しさを感じられるようにする。 ○必要に応じて「入れて」「貸して」「どうぞ」等の言葉を教師が使いながら知らせることで、友達との遊びに必要な言葉を自分なりに使いながら遊ぶことができるようにする。 ○遊びの仲間に入りたくても入ることができにくい幼児には、様子を見ながら必要に応じて声を掛けたり、誘ったりして、友達と一緒に遊ぶきっかけとなるようにする。 ○思いの違いでいざこざが起きたときには、互いの気持ちを十分に受け止め、思いが出せるように支えたり、気持ちを見取り代弁したりして、自分の思いを教師や友達に言葉で言う方法を知ることができるようにする。 ○したい遊びをする中で一人一人が思いを十分に出している姿を受け止めたり、それぞれの思いに合わせて遊びの環境を構成したり、材料を準備したりして、思いを表現しながら遊びを楽しめるようにする。また、材料や用具を十分準備しておくことで、何度もしてみたい、友達と同じようにしてみたいという思いを実現できるようにする。 ○自分からつくろうという気持ちや、自分なりに考えてつくっている姿を大切に受け止め、つくる楽しさを感じられるようにする。また、していることや楽しんでいることを言語化することで、周りの友達の様子にも目が向けられるようにする。 ○様々な素材に触れることができるように環境を整え、自分のつくりたいものをつくることのできた喜びを味わうことができるようにする。 ○接着の仕方、素材の使い方については、教師も一緒に製作しながら幼児に知らせ、使い方が分かるようにする。 ○運動的な遊びをするときに、友達がしていることを自分もしてみようという思いになるが、まだ自分で危険を予測したり、身体の動きを十分にコントロールしたりすることができにくい幼児もいるため、遊びの状態に留意し、必要に応じて助言したり手を貸したりすることで、安全に遊べるようにする。 ○教師も遊びに参加し、大きな動きで追いかけたり、逃げる方向を知らせたりすることで、逃げる、追いかける等思い切り走ることを楽	

(「むっくりくまさん」等) ○集団遊びやリズム遊びをする。 (フルーツバスケット,「ドングリ体操」等) ○秋の自然物に触れて遊ぶ。 ・木の葉や木の実を拾いに行く。 ・木の葉の色の変化を知る。 ・木の葉や木の実を使って遊ぶ。(マラカス, かんむり等) ○勤労感謝の日について知る。 ・家族にプレゼントをつくる。		しめるようにする。 ○学級の友達と遊んだり, 簡単なルールのある遊びをしたりして, 集団で遊ぶ楽しさを感じられるようにする。 ○ルールのある遊びでは, 一人一人の幼児の気持ちや参加の仕方を大切にしながら, 機会を捉えてルールを繰り返し伝えることで, 遊び方やルールが分かるようにする。 ○集団遊びやリズム遊びは, 最初は簡単なルールやリズムのもの, 短時間でできるものから取り入れていくことで, ルールがあることを知り, 守りながら遊ぶことや体を動かす楽しさを感じられるようにする。 ○木々や気候の変化等の季節の移り変わりを感じたり自然物に触れたりする機会を多くもち, 自然に対する驚きや発見したことを素直に表現できるようにする。 ○木の実や落ち葉を遊びの中で使えるようにするとともに教師も一緒に触れて遊びながら, 落ち葉や木の実の形や色の面白さや違い等に気付くことができるようにする。 ○共同の場所や遊具の片付けが必要な理由を知らせたり, きれいになっていく気持ちよさを言葉にしたりすることで, 自分が使わなかった遊具や場所の片付けもしようとする気持ちがもてるようにする。 ○食事の仕方や手洗い, 手洗い等の生活習慣については, 個々に合わせて声を掛けたり, 保護者と連携したりしながら身に付くようにする。 ○家族がどのように働いているかを話題にすることで, 家族に対する感謝の気持ちを持ち, プレゼントをつくったり, 言葉で自分なりの思いを伝えようとしたりする姿につながるようにする。
反 省		

1 幼児の実態

○それぞれの幼児が、鬼遊びや廃材を使った遊び等、自分のしたい遊びを見付け、自分なりの遊び方で関わって遊ぶ姿が見られる。その中で、教師に対して自分のしたいことや思い付いたことのイメージを身振りで表現したり、言葉で言おうとしたりする姿が見られる。

自分がしたい遊びをする中で、同じ場にいる友達がしていることを近くで見て真似をしたり、持っているものを見て、同じようにしたいと教師に言ったりする姿が見られる。また、一緒に遊びたい友達ができ、自分のしたい遊びに友達を誘ってみようとする幼児の姿も見られ始めている。友達と関わり始めたことで、一緒に遊びたい気持ちはあるものの、相手としたい遊びが異なり、その思いが叶わなかったりすることがある。思いが受け入れられなかったときには、悲しさや困り感で泣いたり、強い口調で怒ったりする姿も見られる。

2 指導の立場

○幼児の思いを受け止め、具体的に引き出していくこと、そして必要だと考えられる物的環境を整えたり、タイミングを捉えた援助を行ったりすることで、幼児の思いに応じることができるようにする。さらに、教師が幼児と一緒に遊び、楽しい雰囲気づくりをしたり、幼児のしていることや楽しんでいることを言葉にしたりすることで、教師や友達のしていることに興味をもち、同じ場で友達と一緒に遊ぶきっかけとなるようにしていきたい。

幼児同士の思いが異なったときには、まずは、安心して思いを出すことができるように受け止めていく。そして、幼児の思いを教師が言葉にして言い方を知らせたり、一緒に言ったりすることで、自分の思いを友達にも言葉で言おうとする姿を支えていきたい。

このような経験の積み重ねにより、自分の思いを安心して出しながら、教師や友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようにしていきたい。

3 本日のねらい及び内容

○したい遊びをする中で、先生や同じ場にいる友達と関わって遊ぶことを楽しむ。

- ・先生や友達のしていることや言っていることに興味をもち、同じようにしたり、自分なりにしたりして遊ぶ。
- ・自分の思いを先生や友達に言葉で言おうとする。

4 評価の観点

○教師は、幼児が友達と一緒に遊ぶきっかけとなる環境の構成や教師の援助をすることができていたか。

○教師は、幼児が安心して思いを出すことができるように思いを受け止めたり、幼児の思いを言語化したりすることができていたか。

○幼児は、先生や友達がしていることを見たり、聞いたりして興味をもつとともに、同じ場の友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいたか。

○幼児は、自分の思いを言葉で先生や友達に言おうとする姿が見られていたか。

1 幼児の実態

○砂場やごっこ遊び等で、自分のしたい遊びを見付けてじっくりと遊ぶ姿や、思い付いたことを自分なりに進めて遊ぶ姿が見られる。また、同じ遊びに繰り返し関わる中で、新たな思いをもち、道具や材料の使い方を変えたり、自分なりに遊び方を考えたりする姿も見られる。そして、教師と同じ場で遊ぶ中で、したいことやつくりたいもの等の思いやイメージを教師に言葉で言おうとする姿も見られる。

そうした姿の中で、同じ場にいる友達のしていることに興味をもち、同じものを使ってみたり、近くで一緒に遊んでみたりする等、友達の存在に気付き、関わろうとする姿も見られる。また、同じ場にいる友達と関わって遊ぶ中で、自分なりの思いを言おうとする場面も見られるようになっていく。

しかし、中には友達と関わって遊びたいという思いをもちながらも、まだ自分の思いを通したい気持ちが強く、思いがぶつかる場面が見られる。また、同じものを使いたいときに、順番を待つことが難しかったり、「貸して」「入れて」等の友達と一緒に遊ぶ際に使う言葉が言いにくかったりする姿が見られる。

2 指導の立場

○教師と共にいる安心感を基盤に、一人一人が自分のしたい遊びに繰り返し関わる中で、安心して自分の思いを表現し、思いが実現できるように、思いを引き出したり受け止めたりする等、共感的に応じながら支えていきたい。

また、遊びの見通しをもち、素材の置き方や空間の構成、援助のタイミングを考えながら、環境を整え、幼児が自分の思いをいかして遊びを進められるようにしていく。そうすることで、友達と同じものがほしいという思いが芽生えたときには、その思いを受け止めながら、すぐに思いが実現できるように、教師が関わり、友達と一緒に遊ぶきっかけにつながるようにしていきたい。また、友達と一緒に遊ぶ中で、思いが重なったり、ぶつかったりするときは、思いを受け止め、言葉を補足したり代弁したりすることで、自分の思いを教師や友達に言葉で言おうとする姿を支えていきたい。

さらに、そのような経験の積み重ねを通して、自分の思いを安心して表現しながら、思いを実現していく中で、友達と関わろうとし、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようにしていきたい。

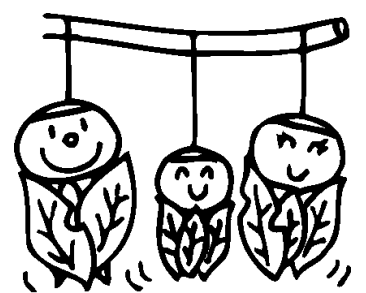
3 本日のねらい及び内容

- したい遊びに関わる中で、先生や同じ場にいる友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。
- ・先生や友達のしていることに興味をもち、真似たり、一緒にしようとしたりする。
- ・先生や友達に自分の思いを言葉で言おうとする。

4 評価の観点

- 教師は、幼児が安心して自分の思いを表現し、したい遊びに取り組めるように環境を整えたり、思いを受け止めたりする等、共感的に応じることができていたか。
- 教師は、幼児が友達のしていることに気付き、一緒に遊ぼうとするきっかけをもてるように、環境の構成や教師の援助を工夫することができていたか。
- 幼児は、同じ場にいる友達のしていることに興味をもち、真似たり一緒に遊ぼうとしたりする姿が見られていたか。
- 幼児は、教師や友達に自分の思いを言葉で言おうとする姿が見られていたか。

M e m o



< 4 歳児 >

【参観の視点】

本日の保育で見られた 4 歳児の「協同性」と、「協同性」を育む教師の援助と環境の構成

【本日のねらいに向かう教師の援助と環境の構成】

- ・友達と一緒に遊んでいる様子を見守りながら、遊び方やイメージに応じて声を掛けたり、その遊びの面白さや楽しさに共感したりすることで、より友達と同じ遊び方や同じようなイメージで遊ぶことの楽しさを感じることができるようにする。
- ・イメージをもとに、思い付いたことや考えたことをしている姿を言葉にしたり、その面白さに共感したりすることで、周りにいる幼児も友達の姿を知ることができるようにする。そうすることで、互いのしていることや思い、考えを知ったり、友達と関わるきっかけとなったりすることができるようにする。
- ・同じ場で遊ぶ友達に思ったことや考えたことをうまく言うことができず困っているときには、話す場を設けたり、言い方を一緒に考えたり、言葉を補ったりすることで、自分で言ったり、相手の言葉を聞こうとしたりすることができるようにする。
- ・遊びの場の位置や広さを考慮して環境を構成することで、友達がしていることを見ることができるようにする。また、幼児のイメージに応じて、そのイメージをもつことができるような道具や材料を用意し、同じ遊びをしている友達と同じようなイメージで遊ぶことができるようにする。

公開保育を参観する際の視点

本日は，“本日の保育で見られた幼児の「協同性」と、「協同性」を育む教師の援助と環境の構成”という視点で保育参観をしていただきます。午後の協議会では、参観していただいたことをもとに，以下の視点で協議を深めたいと考えています。

【年齢別分科会 協議題】

○本日の保育の中で見られた，各学年における「協同性」について

○本日の保育の中で見られた，各学年における「協同性」を育む教師の援助と環境の構成について

【記録用紙】

幼児の「協同性」	「協同性」を育む教師の援助と環境の構成

先月末の幼児の姿	○登園すると自分のしたい遊びをしたり、友達と誘い合って遊んだりする姿が見られる。 ○自分なりのめあてをもって固定遊具や縄等の遊びに繰り返し取り組む姿が見られている。 ○遊びに必要なものをつくる姿が見られるようになってくる中で、友達のつくっているものに関心をもち、同じようにつくってみたり、つくり方を自分なりに考えたり、また友達に教えたりする姿も見られ始めている。 ○ドングリやマツボックリ等の秋の自然物を使って遊んだり、落ち葉を集めたりして、秋の深まりを感じながら自然の移り変わっていく様子に関心をもち姿が見られる。 ○ルールのある遊びをしたり、自分たちで遊び方を考えたりすることを楽しんでいる姿が見られる。思い付いた遊びや遊び方を同じ場で遊ぶ教師や友達に言葉で伝えようとしたり、友達の話を聞こうとしたりしながら、友達と一緒に遊ぶ姿が見られる。			○友達と同じ遊びをする中で、自分のイメージや考えを言葉や動き等で表す姿が見られる。その中で、友達と同じようなイメージをもって遊ぶことを楽しむ姿も見られ始めている。しかし、自分の思いや考えを言うことに一生懸命で友達の言っていることを聞くことができにくい姿や、自分の思い通りにならないと強い口調で訴える姿も見られ、いざこざになったり教師に不満を訴えてきたりすることもある。 ○遊びの後の片付けについては、自分から進んで取り組むことができる姿もあれば、まだ自分のこととして取り組みにくい姿も見られる。当番の仕事については、ほとんどの幼児が進んで取り組んでおり、当番の友達と声を掛け合って準備する姿が見られる。		
ねらい及び内容	○自分なりの願いやイメージをもち、繰り返し試しながら遊ぶことを楽しむ。 ○同じ遊びをしている友達と互いに考えたことを言い合いながら一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ○季節の変化に興味や関心をもち、自然物を取り入れて遊ぶことを楽しむ。 ・遊びの中で自分なりの願いやイメージをもつ。 ・集団遊びで、様々な友達と関わりながら体を動かして遊ぶ。 ・自分の思ったことや考えたことを友達に言葉で伝えようとする。 ・友達の言っていることを聞こうとしたり、していることを見たりして自分の遊びに取り入れる。 ・木の葉の色の変化や美しさに気付く。 ・自分なりの願いに向けて繰り返し取り組んだり考えたりする。 ・遊びのルールや道具の使い方等のきまりを守って遊ぼうとする。 ・木の実や落ち葉等、秋の自然物を取り入れながら遊ぶ。				行事	○公開保育 ○発育測定 ○出前授業 ○親子遠足(岡山市少年自然の家) ○誕生祝い会 ○自由参観日
予 想 さ れ る 幼 児 の 活 動						
遊 び		遊 び 以 外 の 活 動			環 境 の 構 成 及 び 教 師 の 援 助	
		基本的日常生活活動	仕 事			
○運動的な遊びをする。 ・島鬼をする。 ・うんてい、登り棒等の固定遊具で遊ぶ。 ・転がしドッジボールをする。 ・縄で遊ぶ。(短縄、長縄)		○共同の遊具を代わり合って使おうとする。			○自分なりの願いをもって取り組んでいる幼児を認めたり励ましたりする。また、具体的に方法を知らせたり、手伝ったりする。そうすることで、願いに向かって繰り返し挑戦しようという気持ちをもてるようにする。 ○友達同士でうまくいく方法を教えたり、応援したり、できるようになったことを共に喜んだりしている姿を具体的に言葉にして認めたり、教師も一緒に喜んだりすることで、満足感や友達と一緒に取り組む楽しさを味わうことができるようにする。 ○鬼遊び、転がしドッジボール等のルールがある遊びでは、教師も遊びに参加し、一緒に遊びながらルールを分かりやすく知らせたり、素早く動いたりすることで、遊びの面白さを味わえるようにする。また、幼児同士で考えたルールを他の幼児にも投げ掛けることで、友達と遊び方を考えながら一緒に遊ぶことができるようにする。 ○友達のしている遊び方やルール対して困った気持ちや不満を表す姿が見られたときには、教師はその姿を見守ったり、時には仲間として、幼児の困った気持ちを表した言葉に共感したりすることで、自分の思いを伝えたり、相手の言葉を聞こうとしたりし、どうすればよいか考えることができるようにする。 ○戸外での遊びや運動的な遊びについては、危険な遊び方に気付くように声を掛けることで、幼児自身でも安全に気を付けて遊べるようにする。	
○ごっこ遊びをする。 ・自分のなりたい役になって遊ぶ。 ・遊びに必要なものをつくる。						
○秋の自然に関わって遊ぶ。 ・木の実や落ち葉を拾う。 ・木の実や木の葉等を使って、遊びに必要なものや身に着						
					○園内外の木の実や木の葉の形や色、野山の木々の紅葉や木の葉が落ちていく様子等の変化に教師も目を向け、話題にしたり幼児の驚きや発見に共感したりして、秋の自然の美しさや冬への移り変わりの様子に関心をもちことができるようにする。 ○身近な秋の自然に触れることができるような場を用意して、秋の自然物を使って十分遊ぶことができる	

ける物をつくる。 ・水栽培の様子を観察する。 (ヒヤシンス、クロッカス) ○歌を歌ったり，リズム遊びや楽器遊びをしたりする。 ・曲に合わせて歌ったり踊ったり楽器を鳴らしたりする。 ○勤労感謝の日を知る。 ・身近な働く人々について話を聞く。		○遊んだ後は遊具や用具，材料を友達と一緒に片付ける。 ○手洗いの際には，袖をまくって洗う。	○友達と一緒に当番の仕事をする。	ようにする。 ○落ち葉や木の実を使って遊ぶことを通して，色や形，大きさを比べる，何かの形に見立てる等について関心をもつことができるようにする。 ○それぞれの幼児が自然物を使って工夫してつくっている点を認めたり，周りの幼児に知らせたりすることで，満足感を味わったり，繰り返しつくったりすることができるようにするとともに，周りの幼児もしてみようという気持ちをもつことができるようにする。 ○球根の水栽培では，週に1回程度の水替えを一緒にする中で，根を大切に扱うことを知らせたり，幼児の気付きや驚きに共感したり，話題に取り上げたりすることで，生長の様子に関心がもてるようにする。 ○友達と一緒に曲に合わせて歌ったり踊ったり楽器遊びをしたりしている楽しさに共感することで，友達と声や動き，音を合わせる楽しさや心地よさを感じることができるようにする。 ○自分の遊んだ遊具や用具を片付けている姿を認めることで，場がきれいになったり，友達と一緒に片付けを進めることができたしたりした満足感を味わうことができるようにする。 ○使った後のペンやハサミ等の用具を片付けるように促したり，教師も場を整えながら遊んだりすることで，安全に遊ぶことができるようにする。また，使った後にはどのようにしておけばよいのか，機会を捉えて投げ掛けることで，共同の用具を大切にしようとする気持ちがもてるようにする。 ○家族や地域の方等，お世話になっている人について話題にすることで，その仕事に興味や関心をもったり，感謝の気持ちを感じたりすることができるようにする。 ○自分から袖をまくって手を洗おうとする姿を認めたり，袖をまくることに気付けるような声を掛けたりすることで，手洗いの際には袖をまくり，手首まで丁寧に洗うことができるようにする。 ○当番であるという自覚をもち，幼児同士で誘い合ったり自分から当番の仕事に進んで取り組んだりする幼児を認め，最後まで取り組む満足感や友達の役に立つ喜びを味わうことができるようにする。
反省				

1 幼児の実態

○したい遊びを見付けて遊ぶ中で、自分なりにイメージをもったり、思い付いたことや考えたことをしてみたりする姿が見られている。一方で、側にいる友達がしていることや言っていることで気が逸れ、もとのイメージとは異なる遊び方になる姿も見られている。教師と一緒にイメージをもって繰り返し遊ぶことで、イメージをもとに遊び続ける姿につながっている。また、イメージをもって遊ぶ中で、遊びに必要なものを思い付いてつくろうとする姿が見られており、難しいと感じる際には、教師が側にいると手助けを求め、つくろうとしている。

○気の合う友達と誘い合ったり、したい遊びをしている友達に声を掛けたりして、2～3人程度で一緒に遊び始める姿が見られている。同じ遊びをしている友達に、自分のしたいことや思いを言ったり、聞こうとしたりしながら遊んでいるが、したいことや思いが違う際には、気の合う幼児同士であれば、どうすればいいか考えようとする姿もあるが、黙り込んだり、聞こえていない振りをしたりする姿もある。

2 指導の立場

○幼児のイメージや思いに合わせて、教師も一緒に遊んだり、声を掛けたりすることで、よりイメージや思いをもちながら遊ぶことができるようにしていく。また、遊び方が変わりそうな際には、同じ場で遊んでいる幼児のイメージや思いを引き出すことで、それぞれが自分のイメージや思いを確かにしながら遊ぶことができるようにしていく。つくりたいものを思いながら自分なりにつくろうとしている姿を見守りながら、思うようにいかず困っている姿が見られるときには、つくり方を一緒に考えたり、つくりやすいように手を添えたりして、自分なりにつくろうとすることができるようになっていく。

○それぞれの遊びの場の位置や広さ等、互いがしていることが見えたり、複数の幼児で遊んだりすることができるように環境の構成をしていく。幼児同士が遊んでいる様子を見守りながら、したいことや思いが違うことで、困ったり、嫌な気持ちのまま相手に合わせようとしたりする姿が見られる際には、互いが思いを言うことができるように問い掛けていく。また、状況を整理したり、互いの思いを知ることができるように言葉を補ったりすることで、どうすればいいか一緒に考えられるようにしていく。

3 本日のねらい及び内容

- 一緒に遊ぶ友達と同じようなイメージや遊び方で遊ぶことを楽しむ。
 - ・同じ場で遊んでいる友達や先生に、自分の思いや考えを言葉で言う。
 - ・同じ場で遊んでいる友達が言っていることを聞こうとし、相手の思いを感じたり、どうすればいいか考えようとしたりする。

4 評価の観点

- 教師は、幼児同士で遊ぶきっかけとなるように、環境の構成をしたり、遊びに誘ったりすることができていたか。
- 教師は、幼児同士が遊んでいる様子を見守りながら、必要に応じて、互いが思いを言ったり聞こうとしたりすることができるように促したり、場を設けたり、知らせたりしていたか。
- 幼児は、同じ場で遊ぶ友達に、自分の思いや考えを言ったり、相手の言葉を聞こうとしたりしていたか。
- 幼児は、一緒に遊ぶ友達と同じようなイメージや遊び方で遊んでいたか。

1 幼児の実態

○自分のしたい遊びを見付けたり、新たな遊びを思い付いたり等、自分なりのイメージや思いをもって遊ぶ姿が見られる。また、自分のイメージしたものをつくろうと、使う材料や作り方を考え、自分なりに試したり工夫したりして遊ぶ姿が見られている。一方で、自分なりにつくりたいもののイメージはあるが、具体的なつくり方や使う物を考えることが難しく、教師につくってもらおうとする幼児の姿も見られる。しかしその中で、使う物や具体的なつくり方が分かると、自分でしてみようとする姿が見られるようになってきた。

○気の合う友達や、したい遊びが同じ学級の友達と誘い合い、2～4人程度で一緒に遊ぶ姿が見られている。様々な友達との関わりが増え、自分の思いや考えを言ったり、自分なりに同じ物をつくろうと真似たりする姿も見られる。しかし、自分の思いが相手にうまく伝わらなかったり、自分の思いを通そうとして言い方が強くなったりして、いざこざになることもある。また、困ったことがあると、気の合う友達や教師に言うことはできるが、それ以外の友達には言葉で言うことが難しい様子も見られている。

2 指導の立場

○幼児が自分なりに思い付いたことや考えたことをしてみようとする姿を認めたり、その面白さに共感したりして、自分なりに試して遊ぶ楽しさを感じたり、もっとうまようとする姿につなげたりしていきたい。また、自分のイメージしているものをどのようにつくったらいいかが分からなかったり、具体的なイメージをもちにくかったりして教師にしてもらおうとする場合には、どのようなイメージや思いをもっているのかを引き出す声掛けをしながら、幼児のイメージしているものや思いを見取るようにする。そして、見取った思いに応じて使う物や作り方を一緒に考えたり、具体的な方法を提案したりすることで、幼児の思いが実現できるように引き続き支えていきたい。

○友達の姿に興味をもち、自分なりに関わろうとしたり真似たりする姿を見守りながら、必要に応じてそれぞれのイメージしていることや思いを知らせ、友達と関わりながら遊ぶ楽しさ感じられるようにしていきたい。思ったことや考えたことをうまく言うことができなかったり、互いの思いがくい違ったりして、困ったり不満を感じたりしているときには、それぞれの思いを言葉で言ったり、自分で言ったりすることができるように促す。そうすることで、友達の思いを聞こうとする姿につなげていきたい。

3 本日のねらい及び内容

- 友達と同じようなイメージや遊び方で一緒に遊ぶことを楽しむ。
 - ・同じ場で遊んでいる友達や先生に自分の思いや考えを言葉で言う。
 - ・同じ場で遊んでいる友達が言っていることを聞こうとし、相手の思いに気付いたり、自分なりに考えたりする。

4 評価の観点

- 教師は、同じようなイメージや遊び方で友達と関わって遊ぶことができるように、幼児の思いやイメージを言葉で引き出したり、つないだりすることができていたか。
- 教師は、幼児の思いが相手にうまく伝わらなかったり、幼児同士の思いがぶつかったりしたときに、思いを言葉で言うことができるように言葉を補ったり、言い方を一緒に考えたりすることができていたか。
- 幼児は、同じ場で遊ぶ友達に思いや考えを言葉で言うことができていたか。
- 幼児は、同じ場で遊ぶ友達の話を聞こうとし、相手の思いに気付くことができていたか。

M e m o



< 5 歳児 >

【参観の視点】

本日の保育で見られた 5 歳児の「協同性」と、「協同性」を育む教師の援助と環境の構成

【本日のねらいに向かう教師の援助と環境の構成】

- ・幼児同士で話し合って遊びを進めようとしているときには、自分たちで伝え合う姿を見守りながら、それぞれの考えのよさを言葉にしたり、認めたりする。そうすることで、互いの考えのよさに気付いたり、友達の考えを遊びに取り入れたりすることができるようにする。
- ・遊びに対する考えやイメージが食い違ったり、自分の思いだけで遊びを進めようとしていたりしているときには、互いに考えを出し合う機会を保障するとともに、それぞれの考えを具体的に引き出したり、話している内容を整理したりすることで、イメージやめあてを共有できるようにする。
- ・話し合ったことで遊びが面白くなったことを言葉にすることで、話し合いのよさや伝え合う楽しさを感じられるようにする。
- ・自分なりのめあてに向かって取り組んでいるときには見守る。また、うまくできずに諦めようとしている場面では、繰り返し取り組む友達の姿を知らせるとともに、幼児が工夫していることについて見取ったことを言葉にしたり、幼児から引き出したりする。そうすることで、友達の姿が刺激となり、何度も挑戦しようと思えるようにする。そして、幼児同士で教え合ったり、励まし合ったりしながら繰り返し遊びに取り組めるようにする。
- ・様々な材料や用具を準備することで、試行錯誤しながら遊びに関わることができるようにする。また、幼児から要求があったときには、一緒に準備することで、イメージを明確にするとともに、共通のイメージやめあてをもった幼児同士で伝え合い、協力しながら遊びを進めることができるようにする。

公開保育を参観する際の視点

本日は，“本日の保育で見られた幼児の「協同性」と、「協同性」を育む教師の援助と環境の構成”という視点で保育参観をしていただきます。午後の協議会では，参観していただいたことをもとに，以下の視点で協議を深めたいと考えています。

【年齢別分科会 協議題】

○本日の保育の中で見られた，各学年における「協同性」について

○本日の保育の中で見られた，各学年における「協同性」を育む教師の援助と環境の構成について

【記録用紙】

幼児の「協同性」	「協同性」を育む教師の援助と環境の構成

先月末の幼児の姿	○友達との仲間意識が高まり、友達と声を掛け合って活発に遊ぶ姿が見られている。その中で自分の考えを言ったり、相手の言うことを受け止めようとしたりしながらめあてを共有して遊ぼうとする姿が見られるようになってきた。また、友達と同じ願いをもち、材料や用具を選びながら遊びに必要なものをつくったり、役割を分担したり、助け合ったりする等の姿も見られるようになっている。		○気候の変化を感じ、秋の訪れに関心をもつ姿が見られる。園庭に落ちている銀杏の葉を集めたり、木の葉の色の変化に気づき友達と知らせ合ったりする姿が見られる。	
	○一輪車や固定遊具、縄に具体的なめあてをもって繰り返し取り組む姿が見られている。また、一緒に取り組んでいる友達から刺激を受け、何度も挑戦したり友達と同じめあてをもったりするようになってきている。		○ドングリの種類によって形や大きさ、名前が違うことを知り、ドングリ同士を比べたり、調べたりする等、秋の自然物に興味をもって関わる様子が見られる。また、家庭で見付けた自然物を園に持ってきたり、集めた自然物を遊びに取り入れようとしたりする姿も見られる。	
ねらい及び内容	○一緒に活動する友達と思いや考えを伝え合いながら願いやめあてを共有し、遊びや生活を進めようとする。		行事	○公開保育 ○発育測定 ○幼小共同活動（幣立山） ○親子遠足（青少年自然の家） ○附中生交流 ○避難練習（不審者） ○誕生祝い会
	○秋の自然の変化や美しさに関心をもち、身近な自然物を取り入れて遊ぶことを楽しむ。 ・遊びの進め方や遊びに必要なものについて自分の考えを友達に伝える。 ・友達の考えを聞き、遊びに取り入れようとする。 ・友達と一緒に遊びのルールを考え、守って遊ぶ。 ・友達と考えたことを一緒にしたり分担したりして力を合わせて遊ぶ。 ・体を動かす遊びにめあてをもって繰り返し取り組む。 ・園内外の木々や葉の色の変化や美しさに気付く。 ・自然物の色や形からイメージを膨らませ、自然物を遊びに取り入れながら試したり工夫したりして遊ぶ。 ・園生活に必要なことに進んで取り組もうとしたり、一日の流れや園生活の約束を知らせ合ったりする。			
予 想 さ れ る 幼 児 の 活 動				
遊 び		遊 び 以 外 の 活 動		
		基本的日常生活活動		
○運動的な遊びをする。 ・体操やリズム遊びをする。 ・鬼遊びをする。 （しっぽ取り鬼、ケイドロ等） ・集団遊びをする。 （ドッジボール、サッカー等）		○戸外での遊びや運動的な遊び等については、あらかじめ遊具や場の安全を確認するとともに、幼児自身でも安全に留意して遊ぶことができるように約束の意味も含めて知らせたり助言したりする。また、幼児同士で遊び方を考えたり進めたりすることができるように、時間と場を確保する。		
○いろいろな運動器具で遊ぶ。 （一輪車、鉄棒、うんてい、登り棒、マット、巧技台等）		○幼児同士でめあての実現に向けて考えた作戦を伝え合ったり、実現に近付くための方法を知らせ合ったりする姿を認めることで、友達とめあてを共有し、力を合わせて遊びを進めることができるようにする。		
○ごっこ遊びをする。		○遊びやルールに対する新たな考えや困ったことについて話し合う中で、必要に応じて言葉を補ったり言い換えたりして整理することで、友達と一緒にルールをつくったり、そのルールを守ったりしながら遊びを進めていく楽しさを味わうことができるようにする。		
		○めあてをもって挑戦する姿を認めたり、一人一人に応じて助力したりすることで、めあてが実現したり、実現に近付いたりする喜びを味わい、繰り返し取り組むことができるようにする。		
		○友達が取り組む様子を知らせ、幼児同士で励まし合ったり教え合ったりすることができるように援助することで、友達と刺激し合って一緒に頑張ろうと思えるようにする。		
		○巧技台を使用する際は、実態に応じて使い方の約束を確認することで、組み合わせ方や高さ等に留意し、幼児同士で安全に気を付けて遊ぶことができるようにする。		
		○幼児のより面白くしたいというめあてを実現するために、段ボール箱や画用紙等の様々な材料を幼児の要望に応じて準備したり、めあてに近付きそうな材料と一緒に探したり、教師も仲間の一員として、一緒に考えたり技術的な援助をしたりする。		
		○考えを実現するために試行錯誤する姿や互いの考えを伝え合って遊びを進めている姿を認めたり、周りの幼児に知らせたりすることで、考えを共有しながら継続的に遊ぶ楽しさを感じることができるようにする。		
		○一部の幼児の考えで遊びを進めようとしている姿が見られたときには、仲間の一人として教師		

	○秋の自然に関わる。 ・落ち葉拾いをする。 ・自然物を使って遊ぶ。 (木の実, 木の葉) ・水栽培の様子を観察する。 (ヒヤシンス, クロッカス) ○劇遊びをする。 ・劇遊びをする。 ・歌を歌う。 ・生活発表会について話し合う。 ・生活発表会に必要なものをつくる。 ○身近に働く人々について話す。 ・勤労感謝の日について話を聞いたり, 話したりする。 ○園生活のことに友達と一緒に進んで取り組む。	が友達の思いや考えを聞くことができるよう伝え, 同じ場で遊ぶ幼児が思いや考えを伝えたり, 互いに思いや考えを受け止めたりしながら進めていくことができるようにする。 ○遊び方について意見の食い違いからいざこざになった場合には, どのように解決していくのかを見守り, 互いに思いや考えを伝え合いながら自分たちで解決しようとするができるようにする。そして, 自分の思いを一方的に通そうとする姿が見られた場合には, 友達の思いや考えを聞くように促すとともに, どうすればよいかを周りの幼児と一緒に考え, 互いが納得する方法を考えようとするができるようにする。また, 自分の思いや考えを出しにくい幼児には, 言おうとしている姿を周りの幼児に知らせたり, 後押ししたりすることで, 自分の考えを友達に伝えることができるようにする。 ○木の実や木の葉を使って遊ぶ中で, 形, 色, 大きさ等の違い等, 発見したことを受け止め, より自然物への関心が高まるようにする。また, 模様や数量に関連した遊びを知らせたり幼児のアイデアを受け止めたりして, 考えたり工夫したりして遊ぶ楽しさを味わうことができるようにするとともに, 数にも関心がもてるようにする。 ○球根の水栽培では, 一緒に栽培している同じグループの友達と水替えをしたり生長の様子を見たりする中で, 幼児の気づきや感動に共感したり他の幼児に知らせたりして, 生長に興味や関心をもつことができるようにする。 ○劇遊びでは, 一人一人の幼児が役になりきって表現しているところを認め, 自信をもつことができるようにするとともに, 伸び伸びと表現することができるようにする。 ○劇遊びでは, 様々な役を交代しながら遊ぶことで, 劇遊びの流れが分かり友達と一緒に表現する楽しさを感じられるようにする。 ○生活発表会でどんなことがしたいかを幼児と相談しながら, 話をつくっていくことで, 一人一人が主体的に取り組むことができるようにする。 ○幼児同士で互いの表現を見合うことにより, それぞれのよい点を認め合ったり, さらに工夫すればよいと思われる点を伝え合ったりして, より意欲的に取り組むことができるようにする。 ○家庭や身近で働く人について話したり聞いたりすることで, 感謝の気持ちをもつとともに, 自分にもできることを考え, 役に立とうとする気持ちをもつことができるようにする。 ○遊びや生活を振り返ったり, 当番の仕事や落ち葉集め等に進んで取り組む友達の姿を共有したりすることで, 遊びや生活に必要なことを考えられるようにする。また, 機会を捉えて, 協力して取り組むよさを感じる経験を積み重ねることで, 友達と力を合わせて遊びや生活を進めることができるようにする。
反省		

1 幼児の実態

○自分なりに具体的なめあてやイメージをもって遊びに取り組む様子が見られている。そして、遊びに必要なものを考えたり、使用する用具や材料を考えながら選んだりし、めあてやイメージの実現に近付こうと試行錯誤しながら遊ぶ姿が見られるようになってきている。一方で、イメージやめあての実現に向かって考えたことを試すものの、うまくいかないときにはすぐに諦める姿や早く遊びを進めたい気持ちから、雑につくったりする姿も見られる。

○3～5人の友達と自分の考えを互いに伝えながら遊ぶ姿が見られる。自分から一緒に遊ぶ友達に考えを言ったり、同じイメージやめあてをもった友達の考えを聞こうとしたりする姿が見られる。しかし時には、自分とは違う考えを聞きにくい姿が見られたり、話していることがうまく伝わらず内容がずれたりする場面もある。話し合おうとする姿勢は見られるため、仲介をすることで、互いに考えを聞こうとする姿が見られる。一方で、主張が強い幼児の思いのままに遊びが進んでいることもある。

2 指導の立場

○幼児がもっているイメージやめあてを具体的に引き出し、一緒に使用する材料を考えたり、必要に応じて提案したりすることで、自分のイメージやめあてを実現する楽しさを感じられるようにする。そして、実現した経験を生かして、友達と一緒に遊ぶ中でも互いに考えを出し、一緒に実現しようと思えるようにしていきたい。また、実現することが難しく、諦める姿が見られたときには、仲間の一員として提案したり、一緒に試したりすることで、繰り返し工夫しながら遊ぶことができるようにしていきたい。そして、新たなめあてにつながりそうな様子が見られたときには、幼児のめあてを具体化し、幼児自身が自覚して繰り返し取り組めるようにしていきたい。

○幼児同士で考えを互いに伝える姿を見守るとともに、話が聞きにくい姿やうまく伝わっていない様子が見られたときには、話し合う機会を設け、具体的な考えを引き出すようにする。そうすることで、互いの考えを知り、様々な考えに触れたり、自分なりに遊びに取り入れれたりできるようにしていきたい。また主張が強い幼児の思いで遊びが進んでいる場面においては、教師と一緒に遊ぶ中で、仲間の一員として反対の考えを伝えたり、再考するきっかけになるよう投げ掛けたりする。そうすることで、自分の考えも友達の考えも大事にしながら、共に遊びを進める楽しさを感じられるようにしていきたい。

3 本日のねらい及び内容

- 友達と同じめあてをもち、考えを伝え合いながら遊ぶことを楽しむ。
- ・遊び方について考えたことを試したり、一緒に遊ぶ友達に伝えたりする。
- ・友達の考えを聞き、自分の考えと比較して考え直したり、遊びに取り入れたりする。

4 評価の観点

- 教師は、幼児が考えたことを試すことができるよう、用具や材料を選んで使える環境の構成に努めていたか。
- 教師は、幼児同士で考えを出し合い、友達の考えを取り入れようと思えるように、考えを共有できるようにしたり幼児の考えを肯定的に受け止めたりしていたか。
- 幼児は、めあてをもって考えたことを試したり、必要な用具や材料を使って工夫したりしていたか。
- 幼児は、遊び方や遊びに必要なものについて友達に考えを伝えたり、友達の考えを聞いて受け止めたりできていたか。

1 幼児の実態

○友達と同じようなめあてやイメージをもって遊ぶ中で、自分なりに必要なものを考え、実現に向かって継続的に遊びに取り組む姿が見られている。しかし、イメージを早く形にしたい思いが強く、画用紙だけで表現しようとしたり、空き箱をそのまま使ったりし、試したり工夫したりする様子が見られにくい。しかし、友達と一緒に遊ぶ中で、様々な表現方法をする友達から刺激を受けて、少しずつ、真似をしたり自分なりに考えて工夫したりする姿が見られるようになってきている。

○同じ遊びに興味をもっている友達と誘い合ったり、思いや考えを互いに言葉で伝えたり、3～5人の友達と一緒に遊び、自分たちで遊びを進めようとしたりしている。一方で自分だけのイメージで遊びを進めようとする姿が多く、友達と思いや考え、イメージを伝え合ったり共有しようとする姿が見られにくい。

2 指導の立場

○教師も幼児と一緒に遊びに関わりながら、それぞれがどのようなめあてやイメージをもっているのかを見取り、それに合わせて環境を整えるようにし、幼児が思い付いたことを様々な方法で表現できるようにする。また、必要な材料や用具を幼児と一緒に考えたり、場合によっては提案したりして幼児がイメージの実現に向けて、自分なりに工夫しながら遊びを進めようとする姿を支えいきたい。

○友達と一緒に遊びを進めようとする姿を見守りながら、必要に応じて話し合う場を設けたり、必要なときには言葉を補ったりして、それぞれの思いや考えを互いに伝えられるようにする。同時に、それぞれの考えのよさや面白さを知らせることで、友達の話の聞いたり、遊びに取り入れようとしたりする姿につなげていきたい。また、友達と思いや考えを伝え合ったり、考えを取り入れたりしたこと遊びがより楽しくなったことを言葉にして知らせ、めあてやイメージを共有しながら遊びを進めていく楽しさを感じられるようにしていきたい。

3 本日のねらい及び内容

- 友達とめあてやイメージを共有し、考えを伝え合いながら、一緒に遊びを進める楽しさを味わう。
- ・思いや考えを言葉で伝えたり、友達の考えを聞いて遊びに取り入れようとしたりする。
- ・友達と同じめあてやイメージをもち、自分なりに考えたことを試したり、工夫したりする。

4 評価の観点

- 教師は、幼児がめあてやイメージを共有できるように、友達と考えを伝え合う姿を見守りながら、必要に応じて言葉を補ったり、話をする機会をつくったりしていたか。
- 教師は、幼児のめあてやイメージの実現のために必要な材料や用具を幼児と一緒に考えたり用意したりする環境をつくることができていたか。
- 幼児は、思いや考えを伝え合ったり、友達の考えのよさを感じた時には遊びに取り入れようとしたりしていたか。
- 幼児は、友達とめあてやイメージを共有し、材料や用具を工夫しながら遊んでいたか。

◇講演会

演題 保幼小の接続～架け橋プログラムについて～

講師 北野 幸子 先生 （神戸大学 国際人間科学部 教授）

◇分科会